

香川県立ミュージアム運営協議会 令和2年度第2回会議の概要

日時 令和3年3月18日

場所 香川県立ミュージアム

議事要旨

- (1) 令和2年度事業実施状況等について
- (2) 令和3年度事業計画について
- (3) 意見交換

委員から、次のような意見等が提起された

- 展示以外でも文化財の所在情報をデジタルの地図に落とし、その情報を発信するような取り組みが進んでいる。県内外の機関・研究者から得られた情報も含め、地図上に落とし、ホームページなどで発信していくような取り組みも検討してほしい。
- 動画のコンテンツなどは本数としてもかなり充実してきている。このミュージアムは、アート・歴史・民俗・伝統工芸といった異なるジャンルの文化芸術を扱っているという点で、全国的に見てもユニークな施設。異なるジャンルの素材を組み合わせた情報発信ができれば、館の強みが発信でき、このミュージアムらしい広報ができるのではないかと。
- 瀬戸芸の年は若手の作家を育てる展示をすとか、それ以外の年はじっくり腰を落ち着けて取り組むとか、長い目で展覧会の企画を考えることを期待したい。
- 学校教育への支援も県立ミュージアムの大きな役割。もっと充実させた方がよいと思う。来てもらうだけでなく、こちらから学校へ出かけていくこともあっていいのではないかと。
- デジタルの情報が増えていくので、見てわかりやすく、検索するとすぐに出てきて開けるような情報の整理も必要。
- SNSを使ったワークショップは、期間が短く参加できなかったのが残念だった。1か月くらいの期間があればよい。
人気があるワークショップは、回数を増やすなどして、もっと多くの人に参加できるようにしてほしい。
- 展示のWeb配信は来館できない人へのサービスにもつながり、有効な手段。
常設展や固定の展示についても配信すれば、来館できない人へのサービスにもなるし、今後の来館にもつながるのではないかと。
- 香川県でも文化財保存活用大綱が完成した。その中に、災害対応で未指定文化財についても守ることが書かれているので、ミュージアムも積極的にその役割を担ってほしい。
また、今後市町が地域計画を作っていく際には、ミュージアムの職員も関わって、アドバイスをしてほしい。
- アナログな広報だが、ミュージアムのアンテナショップ的なものが商店街など少し離れた場所があれば、足を運んでももらえることもあると思う。
- メディアの力は大きいので、取り上げてもらうことを積極的に考えてもいいのではないかと。